

絶好調!



# それぞれの挑戦

## 成人の日駅伝を終えて…。

学校の校庭のイチョウの木もすっかり葉を落として帯になりました。冬晴れとなった先日13日(日)、第63回成人の日記念船橋市民駅伝競走大会が行われました。

本校では、この駅伝に向けて、運動部のメンバーを中心に三ヶ月ほど前から練習に励んできました。そのメンバーが、お互いにしのぎを削って走り込む中でさらに成長したメンバーで構成されたのが、今回の成人の日駅伝のチームです。

今年の成人の日駅伝チームは、野球部、サッカー部、陸上部からなる2年生5名・1年生4名の構成で、その中の6名が「船中選抜チーム」として最終的にタスキをつなぎました。結果は27校中13位と、選手達にとっては悔しい面もあるとは思いますが、走り終えて学校に戻ってきて、サポートメンバーや一緒に走ったメンバーとともに、先生方が作ってくれたカレーを頬張る顔は満面の笑顔でした。何よりも、みんなで厳しい練習を乗り越え、インフルエンザも流行し始めた中で、補欠の選手も含めて最後まで緊張感を持って臨み、それぞれがしっかり力を発揮できたことは、一人一人にとって大きな自信となったと思います。

## 「どうせ」よりも「だからこそ」

昨年の冬休み前の全校集会では、「ありがとう」という言葉の話から「思っていることは言葉にして初めて姿を現す」という話をしました。しかし、「言葉にすると姿を現してしまう」という、言葉の持つ負の側面についても、ぜひ知っておいてほしいと思い、冬休み明けの7日(月)の全校集会では、次のような話をしました。

たとえば学校のイチョウの木。毎日のように降り積もる落ち葉を美化委員が中心となって集めてくれていましたが、翌朝はまたたくさんの落ち葉で埋まっています。それを見て「どうせまたつもるのに…」と思う人もいたかもしれません。成人の日駅伝や女子駅伝に向けての毎朝のランニング中にも、「どうせ自分は駅伝選手になるわけじゃないし…」、部活の練習でも、「どうせレギュラーになれないし…」「どうせ補欠だし…」。3年生であれば、今の時期には思わず「どうせ勉強したって…」「どうせあと少ししかないんだし…」とつぶやいてしまうこともあるかもしれません。

しかし、「どうせ…」は自分を否定する言葉であり、自ら道を閉ざす言葉だということを知っていてほしいと思うのです。きつい時・つらい時にこそ「どうせ…」と言いたくなる気持ちを封印して「だからこそ…」と言い換えてみてほしい。と話しました。

その先に自分が予想もしない未来が開けることもあるし、もちろん、何もないかもしれません。しかし、最後までやり続けることでしか見えないものもあるはずです。

「だからこそ」最後まで、「だからこそ」準備しつつ、「だからこそ」あきらめることなく、これからの毎日を過ごしてほしいと願っています。